

ふとしたきっかけが、 未来を変える！

かとう えりか 加藤 恵利香 さん

理学部 生物地球環境科学科(現生物科学科)
(2008年3月卒)

御殿場市立南中学校 教諭

1985年生まれ、静岡県立沼津東高等学校卒
趣味は旅行。好きな言葉は「飽くなき好奇心」。

② 生じる電流の向きを反対におく方法
・磁石のS極とN極を近づけると、
・磁石を動かす向きを右→左、左→右)
・導線の向きを変える)



理学部から教員の道へ

高校の生物の授業で遺伝を学び、私たちの体が暗号一つできていることにとても興味を持ちました。大学で遺伝や遺伝子についてさらに学び、将来は研究職に就きたいと考え、理学部に進学しました。しかし、いざ研究室に入ると自分は研究職ではない仕事をしたいのかもしれないと感じ、自分の進路について悩み始めました。そんなとき、母校で行った教育実習で教員の仕事の面白さに気づき、教員の仕事に就くことを決めました。

実験の経験が、授業に生きています

大学の研究室で培った実験の知識は、今も授業で生きています。子どもたちが実験で失敗した時に、誤差の扱い方やなぜ間違えたのか、具体的にアプローチできるのは、私の強みだと思います。また、大学時代のマウスやカエルの解剖の話子どもたちにすると、ものすごく喜んでくれます。



長男と富士山静岡空港のバックヤードツアーに参加

子どもたちの成長が私のやりがい

中学校の先生と言うと、ほとんどの方に「大変そう」と言われますが、とてもやりがいを感じています。中学生は心も体も大きく成長する時期で、1年生と3年生ではできることも考え方も大きく変わります。そういった子どもたちの成長を間近で見られますし、単純に子どもたちが可愛いということもやりがいですね。

ICTで変わる教育現場

現在、学校ではタブレットなどのICTが活発に使われています。理科は天体や天気など実際に見たり体験したりすることが難しいものがありますが、ICTの活用が、視覚での理解を助けてくれます。今後はICTと旧来の板書やノートの記録を使う場面をさらに使い分け、子どもたちの理解度を上げたいと思っています。



変化が激しい時代。 今こそ挑戦を！

大学4年間はあっという間です。一見、自分に必要ないと思うことにも積極的に挑戦してみてください。ひょんなことから、可能性を広げたり、将来役に立ったりするかもしれません。私自身、必修ではない教職課程を取ったことで人生の選択肢が広がりました。これからの静岡大学には、移り変わりの激しい現代社会に応じた教育を展開し、多様な学生に選ばれる学校であってほしいです。また、zoomを利用した出前講座など大学と中学校が連携していけたらうれしいです。



大学祭の模擬店でおそろいのTシャツを自作しました

加藤さんが学んだ理学部について、くわしくはこちらから →



化学の力で、 みんなの暮らしを 豊かにしたい

わたなべ あつし 渡邊 篤 さん

工学部 総合科学技術研究科工学専攻
(2020年3月卒)

日鉄ケミカル&マテリアル株式会社 勤務(生産技術職)

1995年生まれ、愛知県立成章高等学校卒
趣味はツーリングとカメラ。好きな言葉は「待てば海路の日和あり」。

実践的に学びたいから、 「産業の街」浜松へ

工学部のある浜松市は、産業の街で、大学とも密接に連携し、より実践的に学ぶことができるので静岡大学を選びました。高校時代に化学の不思議さに興味を持ち、実社会で化学を活かしたいと思い、化学バイオ工学科に進学。水蒸気を用いた排水処理に関する研究活動に打ち込みました。「根拠を明確にすること」を意識して先生や共同研究先の方と議論を交わした経験は、今の仕事で大いに役立っています。また、新入生歓迎駅伝大会の運営委員長を務めた際に、学生や先生、大学職員など多方面の方と連携して物事を進める重要性を学びました。



国際学会でポスター発表しました

スケールの大きさに惹かれて 製造設備の仕事に

学生時代に勉強していた「化学工学」の学問を活かせる生産技術職に就きたくて、就職活動をしました。工場見学で実際にスケールの大きな設備を目の当たりにし、製造設備に直接携われるこの仕事を選びました。現在、生産技術職として、ユーティリティ整備や樹脂原料の製造設備を中心に、操業改善や設備検討に取り組んでいます。



学生時代に始めた趣味のバイク

現場の「困った」を直接解決できる喜び

所属する製造部技術室は、安全面・環境面・防災面を中心に現場が困っていることをすくい上げて、技術的な側面で解決していく部署です。課題解決に向けて直接アプローチできることにやりがいを感じています。今後は生産プロセスを開発するポジションにも挑戦し、モノづくりの一連の流れを体系的に経験しながら多方面で活躍できる技術者を目指したいです。



設備の概要をスケッチし、設備改造を検討します

研究活動を楽しんでほしい

理系の学生さんには、ぜひ研究活動に没頭してほしいです。学生時代の研究活動で培った考え方や経験した苦労はどの職種に就いても必ず活かされると思います。また、時間やお金などのコストを気にせず研究ができるのは学生の特権です。自身の関心のある研究を存分に楽しんでほしいです。これからの静岡大学には、学生や先生が集中して学問に取り組むことができる環境づくりと画期的な技術が生まれることを期待しています。

渡邊さんが学んだ工学部、総合科学技術研究科工学専攻について、くわしくはこちらから →

